

立山線分科会での検討状況

1. 路線の現状分析

- ・立山線の利用については、上り下り共に平日は通勤通学の利用者が多く、休日は観光客（電鉄富山駅—立山駅間利用）が多い。
- ・立山線を利用する観光客へのアンケート調査では、駅の近接性が大きな理由となっており、立山線が無かった場合の来訪意向として「訪問していなかった」の回答が多く、鉄道立山線が観光客来訪の大きな動機となっている。
- ・インバウンド需要に伴う観光客の増加傾向や立山線利用の観光客のアンケート結果などから、地鉄立山線利用での観光需要はさらなる増加が見込める。

2. 分科会の開催状況

●第1回立山線・不二越上滝線分科会（R7.6.5開催）

〔議題〕

- ・不二越上滝線の検討状況について
- ・立山線の検討状況について
- ・鉄道事業運営に係るモデル試算について

〔議事要旨〕

- ・立山線の存続に向けた鉄道事業再構築事業の実現可能性調査を実施する。
- ・路線のあり方を議論するうえで重要な運営形態や行政負担の軽減、観光需要への対応といった課題などについて検討。

●第2回立山線分科会（R7.9.1開催）

〔議題〕

- ・富山地方鉄道鉄道線「経営の範囲」に伴う「運営区間」の考え方について
- ・立山線に関する知事への要望について
- ・立山線の検討状況について

〔議事要旨〕

- ・立山黒部アルペンルートへのアクセスとして重要な立山線の岩峠寺駅から立山駅間を観光路線として位置づけ、鉄道線の存続を目指すことを基本的な考えとして取組みを進めることに合意した。

●第3回立山線分科会（R7.11.22開催）

〔議題〕

- ・富山地方鉄道立山線の必要性について
- ・地鉄立山線利用者の経済波及効果（試算）について
- ・地鉄立山線の利用促進に向けた取組みについて
- ・地鉄立山線における斜面防災対策の概要について

〔議事要旨〕

- ・立山線並びに沿線地域の現状及び将来見通し、立山線利用の観光客へのアンケート調査を踏まえた調査結果を中間報告。
- ・令和9年度から立山線の再構築事業を目指すという方向性で合意した。
- ・令和8年度の運行継続のための支援については、12月中にあり方検討会を開催し、全体で議論。

3. 今後の方針

- ・立山線の維持に必要な経費、行政側の財政負担の明確化、再構築に向けた具体策やそれに伴う整備費の検討について関係者で取り組んでいく。